



東 風

学校ホームページ
QRコード

横浜市立綱島東小学校

【新しい年に思う】～うさぎとかめ～

校長 三橋 国雄

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

2023年（令和5年）、希望にあふれた新しい1年が始まりました。元旦に昇る初日は、前日とは違って光が一段とまぶしく、希望に満ち心が弾むように感じました。元旦の朝は不思議と「今年こそは！」という厳粛な気持ちになります。皆様もご家族そろって穏やかに新しい年を迎えられたことと思います。

卯年の意味として、うさぎは、穏やかで濃厚な性質であることから、「家内安全」また、その跳躍する姿から「飛躍」・「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年とされています。

うさぎのことを色々調べているうちに、次のような記事を見つけましたので、紹介させていただきます。

1928年のアムステルダムオリンピックの女子800mで銀メダルに輝いた人見絹枝選手は、現地の子どもたちに「日本の歌を教えて」とせがまれて「うさぎとかめ」の歌を教えたそうです。「もしもしかめよ、かめさんよ世界のうちでお前ほど歩みののろいものはないどうしてそんなにのろいのか・・・」で始まるこの歌は確かに日本の童謡ですが、実は昔話の「うさぎとかめ」はギリシア起源の話素材としたお話で、日本の昔話ではなくイソップ寓話なのだそうです。陸上の銀メダリストが「うさぎとかめの歌を子どもたちに教えたこともおもしろいのですが、人見絹枝選手はきっと日本の昔話と勘違いしていたのではないかというお話です。

子どものころから歌たり聞いたりしていた私も、この「うさぎとかめ」のお話は日本の昔話と想像していたので驚きました。

『うさぎに歩みののろさを馬鹿にされたかめは、山の麓までかけっこの勝負を挑みました。かけっこを始めると予想通りうさぎはどんどん先に進み、かめが見えなくなってしまったので余裕しゃくしゃくで昼寝を始めました。かめは、その間にも着実に歩みを進め、うさぎが目覚めたときには、かめはゴールについて大喜びをしていました。』このようなお話で「どんなときでも、油断をしてはいけない」と教わった記憶があります。

しかしこのお話の本当の意味は違うという意見もあるようです。うさぎの目的は、かめに勝つこと。しかし、かめの目的はうさぎに勝つことではなくゴールすることだったということです。何かをしようとするときやしているとき、自分と他の人を比べると、できそうとか、できないとか強く思うようになります。そこにはおごりや不安が生まれます。しかし、かめのように目的や目標をしっかりと見据えて行動すると、安心感や充実感を味わうことができるのです。目的をもつことがいかに大切か改めて考えさせられるお話です。

「1年の計は元旦にあり」新しい年を迎え、皆さんも今年1年の目標を立てられたことと思います。前をしっかりと見ながら、一歩ずつ目標に向かっていけるよう、学校・家庭・地域がしっかりと連携をとり子どもたちを支援していければと思います。



愛犬との散歩の途中で撮った初日の出

